

彼方「かなた」

校長通信
H24.10.21
Vol.27

【おめでとう！東葛駅伝8位入賞】

前日の心温まる壮行会での決意そのままに、早朝のグラウンドに集合し、力強い部長の小島君の声が響き渡りました。見送りの先生方や部活動後援会のみなさん、PTAのみなさんもそれぞれ激励の声をかけていました。選手の緊張感が朝の空気をより一層張りつめたものになりました。



午前十時、号砲一発！第六十六回大会がスタートしました。一区はエースの原子選手です。夏の全国大会に出場した経験を生かし、堂々の二位で二区、駅伝部新部長、二年生の片桐選手にタスキを渡しました。



前半の各区分には各校とも比較的強い選手を配置しており、激戦が展開されましたが、程よい緊張感で走りぬくことができました。結果は六位と順位は少し下がりましたが、大きく引き離されることなく三区の一年生、齋藤選手につなぎました。



の強さがあります。アップダウンの激しいこの区分も厳しい順位争いが展開され、団子状態でゴールし、一三位で四区の駅伝部部長、小島選手にタスキを渡しました。

前半のエース区分となる四区は、各校ともトップランナーを配置してきます。三年生最後の大会、思いのこもった走りが続きました。結果、五人抜きの快走！八位で五区の二年



六区、三年生の根本選手につなぎことができました。

六区は、長い上り坂のある区分、スピードが問われる区分

緊張感で言葉数も少なくなっていた一年生とはいえ、齋藤選手も校内のタイムトライアルを堂々と突破した心臓



生ランナー関選手につなぎました。

先輩の思いをタスキに載せ、二・九キロをひた走り、つなぎの区分を好走し、十一位で



です。根本選手も思いきりのよしいレースを展開、普段通りに走ることができ、十二位で三年生、深山選手にタスキを渡しました。

七区も三・四キロとエース区間のひとつです。耐えてつながらなければならない厳しい区分です。葛南駅伝アンカーとしての悔しい思いを晴らすように必死の走りを見せ、十一位で八区、三年生の鈴木選手につなぎました。



八区は、七区と同じ距離ですが、順位がかなりはつきりしてくるので、逆転するには、気持ちを強く持つてつなげなければならぬ

区分です。鈴木選手も自分の役割をよく自覚し、必死にがんばり、順位を一つ上げ、十位で九区、石川選手にタスキをつなぎました。

駅伝強化選手として野球部から参加し、一生懸命走ってきました。他の大会とぶつかってしまい参加できなかった仲間のことを思い、駅伝部として頑張ってきたのにレースに出られなかった仲間のことを考え、心の走りを見せて





くれました。距離も短かったのであつという間のタスキ渡しました。前との距離を詰め、アンカーの川村選手に思いをつなぎました。

アンカーの川村選手も石川選手同様、野球部からの参加です。清水公園の直線



するとき、本当に一人一人出せる声を一生懸命張り上げ、応援していたこと。選手が応援に応えようと、弱気になっていた自分にもう一度気合を入れ直して、最後まで頑張れたこと。

また、選手が学校につくと部活動をしていた一、

先生方の感涙を誘っていました。

マネージャーの林君の話にもグツときました。彼もまた、この大会を通して、一回りも二回りも成長した感がありました。チームをけん引してきた小島君、原子君の言葉には重みがありました。後輩に「けがや病気は絶対にするなよ!」という声掛けも真剣でした。



では、抜きつ抜かれつの最後の激戦が展開されました。競技場に入る曲がり角では、八位から十二位までの可能性がある五人の集団で、競技場に入ってきました。第一コーナーを回ったところで一気にスパートし、一人抜き、バックストレートで二人目を交わし、五人の集団の先頭で最後の直線を駆け抜け、見事八位入賞の栄冠に輝いたのです。本当におめでとう!

実は本当にすごいと思っただけ、レース後の報告です。目的地に到着する時間がかかり早かった応援の生徒たち、マナーを守り、選手をどう応援しようか工夫していたこと。選手が通過



二年生が気持ちよく出迎えてくれたこと。三年生の昇降口に先生方で「祝!八位入賞!おめでとう!」の垂れ幕を作ってくれたこと。ランチルームでの祝勝会の準備を教頭先生や多くの先生方、後援会の皆さんが楽しくやってくれていたこと。しかもそういうことを選手がよくわかって行動していることに、本当に、本当に感激しました。

しかも止めは、祝勝会での強化選手達の話です。「ありがとう!」の言葉が何度交わされたことでしょうか!選手が感謝の言葉を口にするのは当然のことだと思いますが、タイムトライアルで控えに回ってしまった人たちも自分の悔しかった気持ちを素直に語った上で、それでも支えてくれた仲間や保護者、先生方への感謝を気持ちを伝えていました。聴いている周囲の友達や保護者のみなさん、



「人生は、思い通りにならないことだらけ、でもその時に自分らしさを発揮し、前向きに頑張れるのは、うまくいかなかった経験をした人です!だから失敗したことがある人間は強い!葛南駅伝での悔し涙を東葛駅伝で晴らそうというみんなの心が一つになった大会です。心に刻んで、次のステップを踏もう!」三年生にとっては、東葛駅伝が最後の大会となりましたので、彼らに贈る校長の言葉です!

今日の午後に行われる報告会集会も、祝勝会のように感謝の言葉で溢れる会になるはずですよ。

「感動をありがとう!」

